

学院鉄研模型講座

～初心者の方から心得のある方まで、学院鉄研がどのようにして模型を作っているのか、どうぞ参考にしてください～

Qこの展示されている模型レイアウトは何？

今回展示している模型レイアウトはNゲージというもので、これは実物の1/150のスケールです。鉄道模型にはNゲージ以外にも1/220のZゲージや1/80のHOゲージがあり、スケールが大きくなるほど精巧になり高価になります。Nゲージは其中で最も広く扱われていて銀座松屋の「鉄道模型ショー」や「鉄道模型コンベンション(JAM)」を始め毎年多くのイベントが開催されています。

Qどんなものが模型であるの？

最新の車両から昔の車両まで多くの車両が模型化されています。JR(国鉄)のものが圧倒的に多いですが、私鉄や第三セクターの車両もあります。現在模型を発売しているのは主に「KATO」「TOMIX」「マイクロエース」「グリーンマックス(GM)」です。大手は「KATO」「TOMIX」で「マイクロエース」と「GM」はコアな私鉄の車両を専門にしている「KATO」「TOMIX」より価格が高めです。

Nゲージにはカメラカーというのものがおり、体験運転のようにこれは模型の目線でレイアウトの風景を見ながら運転を楽しむことができます

QNゲージを楽しむのに必要なものは？

「車両」「レール」「コントローラー」です。これらがあれば模型を動かすことができます。これにレイアウトを加えることでもっと楽しめます。

レールはKATO・TOMIXから発売されていてこのレイアウトでは基本的にTOMIXのレールを使用しています。私たちはフレキシブルレールというKATOの格安のものも活用しています。

Qどのような方法でレイアウトを作っているの？

学院鉄研では、毎年レイアウトを1から作り直しています。そのため、毎年、レイアウトの原案のアイデアを出し合う→レイアウトの基本形を決定→線路敷設→情景作り という流れで作業を行っています。なお、製作期間については、春から約半年かけて作っています。

Qどのようにこのレイアウトを作っているの？

市販の建物の他に部員自身で制作します。ジオラマは部員が木材やプラスチック板など、様々な材料を使って作っています。工夫がとても大事になってきます。この情景ですが、デザインにこだわる人や奇想天外な発想をする人などもいて、作成者らしさが垣間見えます。

Qどのように車両を動かしているの？

コントローラーというのを使って動かします。体験運転線でもこれを使い運転を行います。コントローラーにも色々種類があり実際の運転席のようになっているものやサウンドシステム(走行音、踏切、発車メロディー、ドア開閉音など)を備えているものがあります。

また、レールはすぐ酸化してしまうデリケートなものです。そのためメンテナンスが必要になります。無水エタノールを使用し手作業でレールを拭く他にレールクリーニングカーも活用しています。実際に時々レイアウトでも走行しています。レイアウト上のドクターイエロー的な存在です。